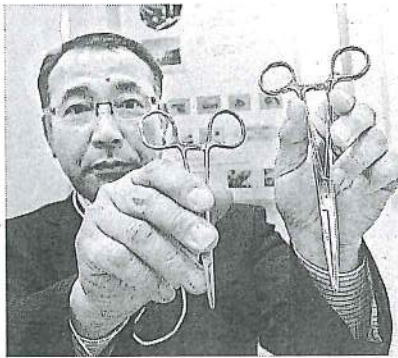


## 車関連中小4社の協同組合

# 手術用器具を量産



自動車産業で培った技術を鉗子の量産に生かす

静岡県西部の自動車関連の中小企業4社でつくる医療器具製造の協同組合「HAMING(ハミング)」は手術用器具を量産する。医療機器卸と組み、従来は職人による手作業が中心だった工程を機械化。生産コストを低減することで、安価な海外製品に対抗する。自動車産業で培った技術を生かし、高齢化社会で需要増が見込める医療分野を新たな収益源に育てる。

## 手作業の工程を機械化 まず鉗子、コストを低減

量産するのは手術で血管や器官をつまんだり、固定したりする時に使う鉗子(かんし)。用途ごとに長さや大きさなど様々な種類がある。ハミングはネジ製造の橋本螺子(浜松市)、金型製造の橋本エンジニアリング(同市)、二輪車部品製造の榛葉鉄工所(掛川市)、板金加工の岩倉溶接工業所(島田市)の4社が医療器具事業への参入を目指し、2012年に結成した。鉗子は医療器具量産の第一弾。各社が工程ごと加工を分担し、橋本螺子が最終的に組み立てる。鉗子の製造は職人に

よる手作業が大半だが、ハミングは大型のプレス機械やロボットを使い、ステンレス素材の鍛造や切削、研磨などの工程を自動化。手作業を極力減らし、生産を効率化する。年内に量産を始め、3年後までに年間1億円の売り上げを目指す。工程の自動化では医療機器卸の大祐医科工業(東京・文京)の協力を得る。同社が鉗子を製造する職人をハミングに紹介。ハミングは職人の製造技術を参考に、設備による自動化を進める。大祐医科工業は製品の販売でも協力する。鉗子の国内市場は年間20億円程度で、このうち海外製品が7割を占める。大祐医科工業によると、国産の鉗子は00年ごろから、パキスタンなど

安価な海外製品に押されて採算が悪化。職人の高齢化などを背景に後継者難が続いており、近年は廃業するケースが相次いでいる。国産の鉗子は海外製に比べ、金属がしなって使いやすいうえ、耐久性も高いという。ハミングは自動車産業で長年培った技術を駆使し、高品質の鉗子を低コストで生産する体制を構築。海外勢に対抗する。静岡県は県内で医療器具や医薬品など医療産業の集積を目指す「ファルマバレープロジェクト」を進めている。県内では自動車や電機に続く新産業として、医療分野に参入する動きが加速しそう